ネビュライザー療法の適応と限界
副鼻腔炎を中心として
（特にエアロゾル発生装置，病態の面より）

京　都　市
兵　　昇

ネビュライザー療法を効果あらしめるためには，充分な必要量の有効物質を副鼻腔に送り込むことである。エアロゾル発生装置と生体の条件と薬剤の3つの事項が考えられる。

副鼻腔へ侵入可能な粒径は3～10 μm と考えられているので2.8～1.3 MHz の超音波ネビュライザー（Neb.）及び高性能の広範囲のS. D. で小粒径分布を有するジェットNeb.のみがエアロゾル発生装置としては適応であるが，鼻腔，副鼻腔は単一器官であり相互に関連を有するので，鼻腔へ応用し得るNeb.は間接的に副鼻腔に有用である。又閉鎖腔である副鼻腔にエアロゾル粒子を侵入させるには，洞内圧変動が重要な因子である。ポリツッエル耳管通気法の如き加圧が必要である。以上が発生装置と使用法の適応と限界である。生体側の因子としては可及的良好な自然口の開口度，粘膜病変の可逆性を期待し得る中，軽症が適応である。